12/31 2008

Japan Music Education Society News Letter

第34号 No. 34

日本音楽教育学会ニュースレター

目　次

１．報告・お知らせ
1-1　平成 20 年度総会議事録 …… 2
平成 19 年度会計報告・平成 20 年度補正予算・平成 21 年度予算
1-2　平成 20 年度第 3 回常任理事会・第 2 回理事会報告 …… 10
1-3　編集委員会からの報告・お知らせ …… 13
1-4　学会活動検討委員会からのお知らせ …… 16

２．第 39 回大会（国立音楽大学）の報告
2-1　第 39 回全国大会終わる …… 17
2-2　第 39 回全国大会に参加して …… 20

３．海外トピックス
3-1　第 7 回 APSMER/ISME Asia Pacific Regional Conference
2009 年上海大会の御案内と発表募集 …… 21

４．事務局より
4-1　お知らせ …… 23

編集後記

1．報告・お知らせ

1-1　平成20年度総会議事録

日　時：平成20年11月８日（土）17:05～17:50
場　所：国立音楽大学　5-113

開会に先立ち，齊藤事務局長より定足数 305（会員総数の５分の１）を越えることが確認され，規定により総会が成立した。(出席者 102 名，委任状と合わせ総数 417 名)

１．開会の辞（北山副会長）
２．挨拶（吉田会長）
３．議長選出
神原雅之会員（国立音楽大学）が選出された。
４．報告事項
１）会務報告（齊藤事務局長）
以下の通り，昨年度大会以降の会務が報告された。(平成 20 年６月 30 日までの会務はすでにニュースレターに掲載されており，ここでは省略)

７月 12 日	平成 20 年度第２回常任理事会（キャンパス・イノベーションセンター）
８月９日	平成 20 年度第２回編集委員会（立教大学）
８月 18～19 日	第４回日本音楽教育学会夏期ワークショップ（東京音楽大学）
８月 31 日	音楽教育実践ジャーナル Vol.6.No.1 発行
	ニュースレター第 33 号発行
	第 39 回全国大会プログラム発送
11 月７日	平成 20 年度第３回常任理事会・第２回理事会（国立音楽大学）
	平成 20 年度第３回編集委員会（国立音楽大学）
11 月８日	平成 20 年度第２回 40 周年記念論文集編集委員会（国立音楽大学）
11 月８～９日	第 39 回全国大会（国立音楽大学）

２）学会活動検討委員会の設置について（吉田会長）
学会のイベント，出版物，組織等について１年間をかけて検討する委員会としてあらたに学会活動検討委員会が設置されたことが報告された。委員として，理事会から八木正一（埼玉大学），安田寛（奈良教育大学）の２会員，一般会員から加藤富美子（東京学芸大学），岩井正浩（神戸大学）の２会員の計４会員が指名された。
３）編集委員会（権藤編集委員長）
ジャーナル 13 号の特集テーマが「＜読譜＞にどう向き合うか－義務教育課程９年間を見通す中で－」に決まった旨が報告された。また『音楽教育学』『音楽教育実践ジャーナル』ともに随時，投稿を受け付けているが，投稿チェックリストをよく見て投稿してほしい旨の要望があった。
４）その他
特になし

５．審議事項

１）理事の補充について（吉田会長）

総会配布資料には，「理事の補充について」とあるが，「常任理事・理事の補充について」に修正するとの説明がなされ，津田正之（琉球大学），八木正一（埼玉大学）の両理事に常任理事を依頼した旨が報告された。また，昨年度の選挙で理事（関東地区）に当選されていた井口太（東京学芸大学）氏が退会されたので，後任として本多佐保美（千葉大学）会員に理事をお願いすることになった経緯が報告され，上記２点が一括で承認された。

２）平成 19 年度会計報告（奥前会計担当）・監査報告（杉江会計幹事）

総会資料３の平成 19 年度会計報告に基づき報告が行われた。また監査の結果，会計報告に相違ないことが報告された後，会計報告が承認された。

３）平成 20 年度補正予算（田中会計担当）

総会資料４の平成 20 年度会計補正予算案に基づき，まず本大会で 20 年度補正予算案を提案する理由が説明され，その後，補正予算が承認された。（なお，補正予算についての説明は別に掲載。）

４）平成 21 年度事業計画（齊藤事務局長）

総会資料２に基づき，以下のような平成 21 年度事業計画が示され，承認された。

平成 21 年	
4 月初旬	平成 20 年度会計監査会
5 月中旬	平成 21 年度第 1 回常任理事・理事会
	平成 21 年度第 1 回編集委員会
6 月中旬	次期会長・理事選挙
6 月 30 日	音楽教育学第 39 巻第 1 号〈通巻 77 号〉発行
	ニュースレター第 36 号発行
7 月初旬	平成 21 年度第 2 回常任理事会
	平成 21 年度第 2 回編集委員会
8 月 31 日	音楽教育実践ジャーナル Vol.7 No.1 発行
	ニュースレター第 37 号発行
	第 40 回全国大会プログラム発送
10 月 2 日	平成 21 年度第 3 回常任理事会・第 2 回理事会（広島大学）
	平成 21 年度第 3 回編集委員会（広島大学）
	次期役員選出のための理事会（広島大学）
10 月 3～4 日	第 40 回全国大会（広島大学）
12 月 31 日	音楽教育学第 39 巻第 2 号〈通巻 78 号〉発行
	ニュースレター第 38 号発行
平成 22 年	
2 月中旬	平成 20 年度第 4 回常任理事会
	平成 20 年度第 4 回編集委員会
3 月 31 日	音楽教育実践ジャーナル Vol.7 No.2 発行
	ニュースレター第 39 号発行

５）平成 21 年度予算（田中会計担当）

総会資料５の平成 21 年度会計予算案について説明され，承認された。（なお，21 年度予算についての説明は別に掲載。）

６）第 40 回全国大会について（三村常任理事）

〈平成 21 年 10 月３日（土）・４日（日）広島大学にて〉

三村真弓（広島大学）理事より挨拶があり，平成 21 年度の大会日程が示され，承認された。

７）第 41 回全国大会候補地について（吉田会長）

関東で開催することが提案され，承認された。

６．議長解任

７．閉会の辞（北山副会長）

《「会計」に関する補足説明 》

11月８日の総会において，会計担当者として平成20年度補正予算（以下「補正予算」）案と平成21年度予算（以下「21予算」）案を説明・付託し，両案は承認された。しかし総会に出席しなかった会員（委任状提出者も含めて）が多くいるため，改めて本紙面を借りて補足説明をしておきたい。

１．予算案を大会プログラムに掲載しない理由

これまで大会プログラムに翌年度の予算案を掲載していた。掲載のためには大会が開催される年の５月の第１回理事会（毎年この時期に開催される）で翌年度の予算案の検討が終っていなければならない。これでは丸一年先の年度予算を作成することになり，学会の実態や社会情勢を充分反映した会計案が検討できない。したがって本年度５月11日に開催された第１回理事会で，今後は①前年度決算を見据え，②それを反映した翌年度予算を検討する。③そのため今後は大会プログラムに掲載しないで，総会では予算案を配布資料として提出することとなった。

２．補正予算について

平成19年総会で承認された平成20年度予算（以下，「元予算」）では，平成19年度から20年度への繰越金が120万円弱と予想されていた。しかし当時の学会執行部の尽力により，平成19年度から20年度への繰越金が550万円弱と増額になったため，補正予算（案）を組むことを5月の理事会にて承認された。

同時期，事務所の移転について検討されていた。旧事務所の部屋の状態とそのまわりの環境をご存知の方々はご理解いただけるだろうが，けっして「安全・快適」といえるものではなかった。そのため６月に事務所移転をした。補正予算では，事務局費が350万円と元予算に対して上昇しているのはこのためである。旧事務所から新事務所への移転費（引越し代，敷金，礼金，契約金等），旧事務所に長年放置されていた廃棄物や廃

材に近い備品類の有料廃棄処理(旧事務所の洗面所・押入れ等の場所を占拠していた),新事務所に保管されている資料等を整理するための本棚,家具等の購入に事務局運営費を使い,また新事務所に設置するための事務器具(事務処理用パソコンやデ−タバックアップ等のための機器類)に事務費をあてた。さらに事務処理を円滑にするために事務局員の出勤時間の延長と人員増(10月より)のために人件費の上乗せを図った。

その他元予算に対して補正予算では,今後予想される紙代等の高騰やページ数の増加を見据えて上乗せ金(ニュースレター,学会誌等)をし,学会40周年記念論文集と記念誌の作成のために80万円を特別会計に振り替えた(うち50万円は40周年記念論文集の編集費として発刊までに出金される)。また会則変更にともない選挙が三年から二年になったことによる選挙積立金の上昇,事務局員の通勤において不慮の事故が発生した場合,学会としてその保障が難しいため「事務保険費」の新規項目を設定した。反対に「退職引当金」は今後発生することがないので廃止項目とした。上記のような検討が第2回常任理事会(7月12日)でなされ,補正予算(案)を作成し,11月8日の第2回理事会で審議され,総会への付託となった。

なお学会の事務処理をすべて行う事務所の移転が可能となったのは,平成19年度において多額の繰越金があったがゆえである。その意味で坪能前会長ならびに前執行部の方々に厚く御礼を申しあげねばならないだろう。

3．21予算

21予算では,収入については「賛助会員」の増加(補正予算でも同様),平成17年からの予算の時系列変化を参照したうえで参加費を減額した。支出については事務所の移転により,小さな会議等は事務所で開催することが可能であるため減額(5万円から3万円へ)した。事務局費の人件費は,今年度10月より3名体制になることや,また事務局の家賃上昇(上昇分2万5千円×12ヶ月分),選挙の積立金等を考慮し積算し,そのうえで収入・支出の差額を予備費とした。

ところで21予算を単年度収支で捉えると,帳簿の数値上では収入は1,200万円強,支出は1,300万円となり,約80万円弱のマイナス決算となる。もとより特別会計に学会基金として250万円の残高があり,また例年,大会実施校から学会への寄付金(会計項目「雑収入」)が見込まれるため,実際上の赤字はかなり減額されるがマイナス決算となる可能性は高い。こういったマイナス決算は,現状の収支では22年度以降も続く可能性がある。

4．会計からみた学会活動のあり方

赤字解消の方法は次の二点しかない。ひとつは収入を拡大すること,もうひとつは支出を削ることである。収入を拡大するより支出を削ることのほうがたやすいことは経営の鉄則として周知である。賛助会員等の拡大等の努力も必要だが,支出をどのようにして抑えるか,無駄な支出の見直し,身丈にあった学会運営ということを考えることが急務である。

(会計担当:田中健次,本多佐保美)

平成19年度会計報告

Ⅰ　一般会計

収入			支出		
科　目	予　算	決　算	科　目	予　算	決　算
前年度繰越金	1,149,054	4,737,404	大会運営費	1,500,000	1,337,969
正会員会費	11,053,000	10,035,000	*大会本部経費*	*700,000*	*700,000*
	(7,000×1,579)		*事務局経費*	*600,000*	*538,580*
学生会員会費	0	20,000	*ﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄ研究*	*200,000*	*99,389*
団体会員会費	50,000	30,000	学会誌費	2,430,000	2,372,708
賛助会員会費	270,000	370,000	*音楽教育学発行費*	*1,230,000*	*1,111,950*
学会誌売上金	350,000	539,331	*実践ジャーナル発行費*	*1,200,000*	*1,260,758*
本誌代		*450,710*	ﾆｭｰｽﾚﾀｰ費	400,000	430,500
送料収入		*88,621*	例会運営費	700,000	583,487
大会参加費	1,300,000	1,072,000	通信・郵送費	1,200,000	818,413
	(4,000×325)		会議費	50,000	18,755
雑収入	20,000	245,480	旅費・交通費	1,800,000	1,529,060
			翻訳費	50,000	0
			事務局費	3,200,000	3,803,676
			事務費	*320,000*	*350,123*
			人件費	*1,680,000*	*2,099,100*
			事務局運営費	*1,200,000*	*1,354,453*
			分担金	200,000	220,223
			選挙積立金	150,000	150,000
			退職引当金	0	0
			ｾﾞﾐﾅｰﾙ積立金	150,000	150,000
			研究出版基金	0	0
			学会基金	0	0
			予備費	700,000	151,805
			小　計	12,530,000	11,566,596
			次年度繰越金	1,662,054	5,482,619
計	14,192,054	17,049,215	計	14,192,054	17,049,215

Ⅱ　研究出版基金　　現在高　　¥3,113,648

平成18年度までの積立金	¥3,113,648

Ⅲ　学会基金　　現在高　　¥2,100,000

平成18年度までの積立金	¥2,100,000

Ⅳ　ゼミナール基金　　現在高　　¥951,918

平成18年度までの積立金	¥1,200,524
日韓ゼミナール補助金	¥−400,000
平成19年度積立金	¥150,000
利息	¥1,394

Ⅴ　退職引当金　　現在高　　¥20,743

平成18年度までの積立金	¥20,743
平成19年度積立金	¥0
利　息	¥0

Ⅵ　選挙積立金　　現在高　　¥4,518

平成18年度までの積立金	¥370,141
平成19年度積立金	¥150,000
平成19年度選挙費	¥515,623
利　息	¥0

◎　平成19年度決算を上記の通り報告いたします。

平成20年4月1日　　会計担当
今川　恭子
奥　　忍

◎　上記の通り相違ないことを監査いたしました。

平成20年4月1日　　会計監事
伊藤　誠
杉江　淑子

平成20年度会計補正予算

収 入		
科　目	20年度予算	20年度補正予算
前年度繰越金	1,662,054	5,482,619
正会員会費	10,206,000	10,584,000
	(7，000×1458)	(7，000×1512)7月8日時点
学生会員会費	0	0
団体会員会費	50,000	0
賛助会員会費	270,000	500,000
学会誌売上金	350,000	350,000
本誌代	*0*	*0*
送料収入	*0*	*0*
大会参加費	1,300,000	1,200,000
雑収入	20,000	20,000
計	13,858,054	18,136,619

支 出		
科　目	20年度予算	20年度補正予算
大会運営費	1,500,000	1,500,000
大会本部経費	*700,000*	*700,000*
事務局経費	*600,000*	*600,000*
ﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄ研究	*200,000*	*200,000*
学会誌費	2,430,000	2,730,000
音楽教育学発行費	*1,230,000*	*1,380,000*
実践ジャーナル発行費	*1,200,000*	*1,350,000*
ﾆｭｰｽﾚﾀｰ費	400,000	450,000
例会運営費	700,000	700,000
通信・郵送費	1,200,000	1,200,000
会議費	50,000	50,000
旅費・交通費	1,800,000	1,800,000
翻訳費	50,000	50,000
事務局費	3,320,000	5,820,000
事務費	*320,000*	*620,000*
人件費	*1,800,000*	*2,200,000*
事務局運営費	*1,200,000*	*3,000,000*
事務保険費積立金	0	100,000
分担金	220,000	220,000
選挙積立金	150,000	250,000
退職引当金	0	**廃止項目**
ｾﾞﾐﾅｰﾙ積立金	150,000	150,000
研究出版基金	0	800,000
学会基金	0	200,000
予備費	700,000	700,000
小　計	12,670,000	16,720,000
次年度繰越見込金	1,188,054	1,416,619
計	13,858,054	18,136,619

平成21年度会計予算

収　入	
科　　目	平成21年度予算
前年度繰越金	1,416,619
正会員会費	10,220,000
	(7，000×1460)見込計算
学生会員会費	0
団体会員会費	30,000
賛助会員会費	500,000
学会誌売上金	350,000
本誌代	0
送料収入	0
大会参加費	1,100,000
雑収入	20,000
計	13,636,619

支　出	
科　　目	平成21年度予算
大会運営費	1,500,000
大会本部経費	*700,000*
事務局経費	*600,000*
ﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄ研究	*200,000*
学会誌費	2,730,000
音楽教育学発行費	*1,380,000*
実践ジャーナル発行費	*1,350,000*
ﾆｭｰｽﾚﾀｰ費	450,000
例会運営費	700,000
通信・郵送費	1,200,000
会議費	30,000
旅費・交通費	1,800,000
翻訳費	50,000
事務局費	3,820,000
事務費	*320,000*
人件費	*2,000,000*
事務局運営費	*1,500,000*
事務保険費積立金	0
分担金	220,000
選挙積立金	200,000
退職引当金	0
ｾﾞﾐﾅｰﾙ積立金	100,000
研究出版基金	0
学会基金	200,000
予備費	636,619
計	13,636,619

1-2　平成20年度第３回常任理事会・第２回理事会報告

日　時：平成20年11月７日（金）14:00～16:00
場　所：国立音楽大学　2-27
出席者：岩崎，小川，齊藤，嶋田，杉江，田中，津田，尾藤，藤沢，降矢，
　　本多，三村，村尾，八木，安田，吉田，吉富　各理事

開催に先立ち吉田会長より挨拶があった。

【報告事項】

１．会務報告（齊藤）

資料の通り，５月 12 日～11 月９日までの会務報告が行われ了承された。

２．会計報告

１）日韓合同ゼミナール会計報告（加藤）

資料の通り会計報告があり了承された。

２）夏期ワークショップ会計報告（杉江）

資料の通り会計報告があり了承された。

３．学会活動検討委員会について（吉田）

資料に基づき，会長より検討委員会の概要について説明があり了承された。なお，委員については，岩井正浩，加藤富美子，八木正一，安田寛各氏に依頼することとなった。

４．各委員会報告

１）編集委員会（八木）

資料に基づいて報告と要望が２点あった。要望２点のうち来年度編集委員会の回数を１回増やす要望については，来年度については認めることとなった。なお，来年度以降については学会活動検討委員会の報告を待って再度検討することとした。倫理規定の作成についての要望に関しては，倫理規定を作成する特別委員会を設置する方向で検討することとなった。

２）国際交流委員会（田中）

資料の通り報告があり了承された。

３）40 周年記念論文集編集委員会（安田）

11 月９日に編集委員会を開催し最終案を決定する旨報告があった。

４）40 周年記念誌編集委員会（岩崎）

資料に基づき編集の進行状況について報告があり了承された。

５）音楽文献目録委員会（齊藤）

委員会からの資料に基づき報告があり了承された。

６）学会賞審査委員会（吉田）

第１回審査委員会を２月に開催する旨報告があった。

５．地区例会報告

北海道地区：２月か３月に開催する予定。

東北地区：弘前大学で年度末に開催する。

関東地区：２月７日（土）に東京学芸大学で博士論文の発表会と併せて開催予定。

東海地区：第1回例会を７月に三重大学で行った。2回目は3月に静岡で開催予定。

北陸地区：３月に新潟大学で開催予定。

近畿地区：第１回を修論発表会として行った。２回目を開催する予定。

中国四国地区：２月か３月に広島大学で開催の予定。

九州地区：大分大学で来年３月上旬に開催予定。

６．第 39 回全国大会〈国立音楽大学大会〉（藤沢）

大会開催校を代表して藤沢理事より大会の取組経過等について報告があった。

齊藤事務局長より発表プログラムの変更１点について報告があった。また，参加者状況等について報告があった。

７．その他

・交通費の支給方法

事務局長より支給方法についての申し合わせが示され了承された。

・ニュースレター第 34 号

１月初旬に 34 号が発行される旨嶋田担当理事より報告があった。

村尾理事より会員名簿の作成について検討方の依頼があり，学会活動検討委員会で検討することとなった。

・事務局スタッフについて

10 月より本部事務局スタッフを１名増員することが了承された。

・事務局所在地について

新しい事務局の紹介が事務局長よりあった。

・今後の予定について

資料に基づいて今後の会務予定が事務局長より提案され了承された。

【審議事項】

１．理事の補充について（吉田）

井口理事の退会に伴って，千葉大学の本多佐保美氏に理事就任を依頼し快諾を得た。

２．平成 20 年度補正予算（田中）

資料に基づいて平成 20 年度補正予算（案）が田中会計担当理事より提案され，了承された。なお，事務所関係経費については，補正予算は突出しているので，会員に詳しい説明が必要であるとの意見があった。

３．平成 21 年度事業計画（齊藤）

資料に基づいて事業計画案が提案され，編集委員会が1回増える点を訂正した上で了承された。

4．平成21年度予算案（田中）

担当理事より予算案が提案され了承された。また，予算の現状や改善点等について種々議論を行い，学会活動検討委員会へ検討を付託することとなった。

5．第40回全国大会について（吉田）

第40回全国大会を広島大学で平成21年10月3日，4日開催することが提案され了承された。

6．第41回全国大会候補地について（吉田）

第41回大会の候補地について関東地区とすることとなった。

7．新入会員及び退会者について

新入会員22名，申し出退会者8名について了承した。

平成20年11月4日現在，正会員数1526名。

新入会員（平成20年7月12日以降）

会員番号	氏　名	所　属　先
3569	寒川　穂波	京都市立中川小学校
3570	松藤　弘之	佐賀女子短期大学
3571	兼古　勝史	日本インターネット新聞社
3572	髙橋　優花	厚木市立藤塚中学校
3573	滝口　亮介	国立音楽大学　洗足学園音楽大学
3574	井野　さと子	日本演奏連盟会員
3575	北川　翠	横浜国立大学（院生）
3576	神谷　美和子	東京家政大学（院生）
3577	北浦　孝和	兵庫教育大学（院生）
3578	加納　暁子	長崎大学
3579	上野　由美子	千葉大学（院生）
3580	岡橋　智恵美	高松市立牟礼小学校
3581	蛯名　美央	横浜国立大学（院生）
3582	与那嶺　あさ子	沖縄県立看護大学
3583	金井　康記	岡山県総合教育センター
3584	小野　由恵	藤女子大学
3585	一條　昌子	立教大学
3586	井上　恵理	国立音楽大学
3587	石川　正明	京都教育大学（院生）
3588	多賀　秀紀	島根大学（院生）
3589	三浦　優佳	昭和音楽大学（院生）
3590	斎藤　竜夫	新潟中央短期大学

1-3　編集委員会からの報告・お知らせ

編集委員会委員長　権藤敦子

１．投稿原稿について

学会誌に掲載する論文等には，音楽教育学研究としての意義や独創性，適切な形式や表現とともに，「研究目的が明記されているか」「研究方法は適切か」「論旨の展開ならびに論文の構成は適切か」「結論が明記されているか」「既往の研究の検討や引用は適切か」といった内容・構成に関する確認が求められます。また，研究協力者の人権の尊重やプライバシーの保護に配慮し，研究結果の公表について同意を得る，といった倫理的な手続きが問われます。執筆要領，投稿者用チェックリスト等を参考にして，学会誌の原稿として必要な要件を今一度ご確認ください。なお，次回の委員会は２月 22 日に開催予定です。積極的なご投稿をお待ちしております。

２．『音楽教育学』レイアウトの変更について

ページ・レイアウトを改善するために，1 論文ごとに，タイトル，氏名，要旨，キーワードを和文，英文にまとめて 1 ページ目に掲載することになりました。

３．『音楽教育実践ジャーナル』の編集・印刷業務について

これまで編集を松沢清美さんに，印刷を（株）ユー・エイドにお願いしてきましたが，編集者の都合等により次号から（株）メディアクリエイトに委託することになりました。編集委員会，エディターの希望を聞きながら創刊号から11冊の誌面を編集いただいた松沢さんには大変お世話になりました。この場を借りて厚く御礼申し上げます。

４．第3回編集委員会（11月７日）での論文採択審議について

『音楽教育学』研究論文３本，『音楽教育実践ジャーナル』実践論文1本，特集投稿4本の審議を行い，研究論文1本，特集投稿２本の掲載が決定されました。また，『音楽教育学』研究論文２本について査読手続きにはいりました。

５．音楽教育実践ジャーナル誌vol.6 no.1（通巻11号）の訂正について

音楽教育実践ジャーナルvol.6 no.1（通巻11号）について，下記の箇所に誤りがありました。お詫びして訂正いたします。

訂正箇所：p.15 左段 18 行目～19 行目

（誤）集団的に発生する機会が。こうした幼児たちの生まれること
　　が望まれる。群れる行為の中に。

（正）集団的に発生する機会が生まれることが望まれる。こうした
　　幼児たちの群れる行為の中に

『音楽教育実践ジャーナル』vol.7 no.1（通巻13号）
特集・原稿募集

特集テーマ：
「＜読譜＞にどう向き合うかー義務教育課程9年間を見通す中でー」

『音楽教育実践ジャーナル』vol.7 no.1（通巻13号）の特集に向け，下記の要領で原稿を募集します。テーマ設定の趣旨をご理解いただき，多数のご投稿をお待ちしております。

授業実践の場で読譜をどう扱うかについては，音楽科教育における大きな課題です。読譜指導に関しては，学習指導要領にその指針と達成すべき目標が示されているにもかかわらず，それぞれの実践現場での指導の実態には，かなりのばらつきがあるのが現状です。また，その学習指導要領自体，読譜指導に関する方針が，必ずしも一定であるとは言えません。そこには，具体的に楽譜をどう読むのかという，唱法の問題もからんでいます。一方で，読譜指導が果たして学ぶべき必須のものであるのかどうかという議論もあります。とくに，さまざまなジャンルの音楽を取り扱うようになってきた今日の音楽教育では，「楽譜」の有する意味や役割に対する考えもさまざまです。このように，読譜指導は，その方法論を検討する一方で，音楽教育が何を目指すのかという根本的な問題から考えていく必要があるでしょう。また，読譜の能力とは，決してたやすく習得できるものではありません。国語科における読み書き能力や数学科における計算能力が小・中学校の学習を通して習得されるように，読譜指導においても，これをきちんとした学力あるいはリテラシーとして習得させようとするなら小・中学校の連携は必須の課題でしょう。

本特集では，音楽科教育における読譜指導を，それがどうして必要なのかという根本的な問題から，個人のライフコースにおける読譜能力獲得の意味についてなど，さまざまな視点から考えてみたいと思います。その上で，歌唱，器楽，創作のそれぞれの授業を通してどのような読譜能力を習得することができるのかも考えなくてはなりません。論文のみならず，読譜指導におけるさまざまな実践例なども広く募りたいと思います。

【投稿時のお願い】

- 投稿の際には特集の募集原稿であることを必ず明記し，下記送付先にご郵送ください。

- vol.7 no.1（通巻13号）特集投稿送付先
  〒739-8524
  東広島市鏡山１－１－１ 広島大学大学院教育学研究科
  初等カリキュラム開発講座権藤研究室気付
  日本音楽教育学会事務局〔編集担当〕あて

- お問い合わせ　jmesedit@hiroshima-u.ac.jp
  ＊『音楽教育実践ジャーナル』特集投稿以外の原稿の送付先は従来通り事務局本部（私書箱）です。

- 論文，実践報告，提言等，種別の希望がありましたらお知らせください。ただし，審議の結果，希望通りにならない場合もあります。

- 書式，字数等は『音楽教育実践ジャーナル』投稿規程をご参照ください。図表，写真等も挿入箇所のスペースを文字数に換算して字数に含めます。

- 原稿が届いたら事務局より受領通知をお送りしています。万一10日以上経っても通知がない場合は，お手数ですが事務局までご連絡ください。

- 採択された原稿については，編集委員会から５月末日までに投稿者に連絡します。審議の結果によっては，修正をお願いする場合もあります。

- 特集投稿締切 2009年４月末日必着

1-4　学会活動検討委員会からのお知らせ

学会活動検討委員会委員長　加藤富美子

このたび，会長諮問により学会活動検討委員会が設けられることとなりました。委員の構成は，現在，岩井正浩，加藤富美子（委員長），八木正一（常任理事），安田寛（理事）の４名です。以下に，会長からの諮問内容およびそれに基づいて開催された第１回学会活動検討委員会の報告をさせていただきます。

○ 会長からの諮問内容（概要）
（設置の目的）本学会は音楽教育研究の発展に貢献をしてきているが，現在のままの運営では，数年後には運営面においても会計面においても立ちゆかなくなることが明白である。そこで，学会活動をスリム化，シンプル化する方向で学会運営について見直しを行う機関として，学会活動検討委員会を設置する。
（委員会の課題）見直すべき事項は以下の通りである。
・各種イベント（大会，ゼミナール，ワークショップ，地区例会，その他）
・出版物（音楽教育学，音楽教育実践ジャーナル，ニュースレター，その他）
・組織（理事会，常任理事会，各委員会，事務局）

○ 第１回学会活動検討委員会報告
日時：2008 年 12 月 7 日（日）11:00～14:00
場所：日本音楽教育学会事務局
出席：加藤，八木，安田
議題：
１　会長諮問内容についての検討
会長より諮問内容について説明を受けた後，それぞれの事項について今後の進め方を検討した。その結果，各種イベントとしてはワークショップ及び地区例会の持ち方について，出版物としては『音楽教育学』の充実をめざした『音楽教育学』『音楽教育実践ジャーナル』の内容について，組織としては事務局の仕事内容についてを重点課題として，それぞれについて過去 10 年間の実績の収集・分析を行うことから，委員会活動を始めることとした。
（なお，この他，追加の事項として，前期理事会で導入が検討された参事制度については，今期理事会では参事を設けないとするという報告が会長より後日届けられた。）

以上ご報告させていただきます。
なお，学会活動検討委員会では，上記の会長からの諮問内容について，会員のみなさまから広くご意見をいただきたく，事務局宛に積極的にご意見をお寄せくださいますよう，どうぞよろしくお願いいたします。

２．第 39 回大会の報告

2-1 第 39 回全国大会終わる

実行委員長　藤沢章彦

2008 年 11 月 8 日(土)～9 日(日)の両日，東京・国立音楽大学にて，本学会の第 39 回の全国大会が行われました。

発表は研究発表（個人自由研究）91 件，共同企画 4 件，常任理事企画 2 件（プロジェクト研究 2 件)，大会実行委員会企画 5 件(ワークショップ 3 件，講演 2 件)，それと院生フォーラムという内容でした。そのほか総会，懇親会も行われ，参加者は会員 379 名（賛助会員 10 名含む)，非会員(臨時会員) 128 名で，合計 507 名という大勢の参加をいただき，盛会に終わることができました。

全発表数が 102 件というのは，おそらく全国大会では最多の数ではないかと思われます。東京での開催ということも一つの理由でしょうが，都心ではなく少し離れた交通の便が良いとは言えないことや，11 月に入ってという時期にもかかわらず，大勢の参加で大変充実した大会になりました。ご参加の会員の皆さまに，厚くお礼申し上げます。残念ながらご都合で参加できなかった会員の皆さまには，学会誌にて大会報告がされますので，どうぞご覧ください。

実行委員会としては可能な限りの会場設定や運営を心掛けたつもりですが，細かな点や想定外のことなどもあって，十分ご満足いただけなかったかもしれません。充実した発表の内容に免じてご容赦ください。

大会内容については，学会誌がありますので省略し，実行委員会として大会運営のことについて，少し感じたことを述べたいと思います。

1　参加申し込みは事前に，振込も事前にしていただくことが，受付の負担や混雑をさけることができます。はがきでの申し込みだけで参加費を振り込まない場合，申込みも振込みもなく参加される場合などがあります。それぞれ事情がおありとは思いますが，期限までに行ってくれることが，事務局や実行委員会は助かります。当日は参加費が高いのもそれを避けるためですので。

2　発表の機器についてです。今後，パソコンを利用した発表が一層増えると考えられます。メーカーや機能も同じではないため，会場としての対応の困難が予想されます。今回の経験から，使用する機器は慣れた，ご自分のものを使う。また，会場の機器とその機能について，あらかじめ周知しておくことが大変重要なことが分かりました。

会場校はメディアセンターではありません。さまざまな AV 機器やパソコンのほとんどをカバーし，その使用に精通している人を複数スタッフとして抱えておくことは大変困難です。これはあるか，これは使えるかという注文，要望が広がると，対応できる会場は無くなってしまうのではないかと心配です。会場校で準備できる，対応できる方法で発表を工夫することが大切だと思います。

また，発表者の補助資料の数が足りないことがありました。自分の発表会場の参加者数が不明ですので，難しいところですが，会場校での増し刷りはできないと考えて準備していただくほかはないと思います。

3　発表者，発表件数が増えると，同規模の会場（教室）や発表に合わせた会場を確保することが大変です。現状の完全な自由申込制ですべての発表を行うことは，2 日間方式では日程もスタッフも対応できなくなるかもしれません。今回もぎりぎりの運営でした。今後の検討課題だと思われます。

4　大会は会員が相互に助け合って行うもので，どこかにお任せして，自分は参加するだけ，という考え方をしないようにしたい。すなわち，次は自分が大会のスタッフをする，という気持ちで学会員になっていることが必要だと思います。今回自分勝手な人がいた，というわけではありませんが，「会員」ということは，全会員が平等に権利と責任をもっているという自明のことを確認したいと思います。

5　大事な資料や傘の忘れものが多かった。これはもうどなたのものかも分かりませんし，お送りしてお返しすることもできません。すべて処分させていただきました。

主な感想は以上ですが，今大会を無事終えることができて，ご参加の皆さま，理事の方々，学会事務局の皆さまのご支援，ご協力を心から感謝いたします。

総会のようす

総会後の懇親会

2-2 第 39 回全国大会に参加して

中村音楽教室　中村かおり

私は今年度入会させていただいたばかりで，全国大会もはじめて参加させていただきました。新入会員として，今回の全国大会に参加した感想を述べさせていただきます。

全国大会のプログラムには，多数の研究発表が載っていました。どの発表も魅力的で，どれも聞きたいと思いました。それに加えてワークショップ・共同研究・プロジェクト研究・講演と分科会がいくつもあり，どの発表を聞きに行こうかと迷ってしまいました。とても多くの研究が盛んに行われていることに驚きました。

研究発表の内容は多様で，フィールドワークや実験による被験者の行動やデータ，文献のひとつひとつに様々な視点からの分析が加えられておりました。パソコン等の機器の不具合にも動じずに発表する方もいらして，研究の内容と共に発表の仕方も学ばせていただきました。また，配布資料が内容理解に大変役立ちました。

発表は理解することができたのですが，質疑・応答の時のフロアからの質問は，私には難しすぎたように思います。私の単なる勉強不足なので，勉強を積み重ねていかなければならないと感じました。

会場をいくつか移動した際，発表者の方，司会の方，フロアの方々によってつくられる会場の雰囲気が分科会によって少し変わるような気がしたことも，興味深かったです。時間配分は 20 分間の発表，5 分間の質疑・応答，5 分間の移動となっていましたが，時間通りに進む分科会と 5 分近く長引いてしまう分科会があり，移動に手間取ってしまいました。

ワークショップ・共同研究・プロジェクト研究・講演の分科会では，迷った末ワークショップと講演を聴講しました。ワークショップでは，学生時代に戻ったような気持ちになり，夢中になって活動に取り組みました。1 時間半があっという間に過ぎてしまいました。講演では，長年にわたる実践から見えてきたことについて，大変興味深く聞かせていただきました。

より多くの発表を聞かせていただきたいと思うと同時に，自分の勉強不足を痛感した 2 日間でもありました。発表された方々の著書や論文を読ませていただき，更に勉強していきたいと思います。

学生時代に参考にさせていただいた文献の著者の方々に実際お会いすることができ，お話させていただいたことも貴重な体験でした。活字だけでは伝わらないお人柄や，研究に対する熱意が伝わってきました。とても新鮮な 2 日間でした。

会場である国立音楽大学の先生方や学生･院生のみなさんはとても親切で，丁寧に案内をしてくださいました。ありがとうございます。

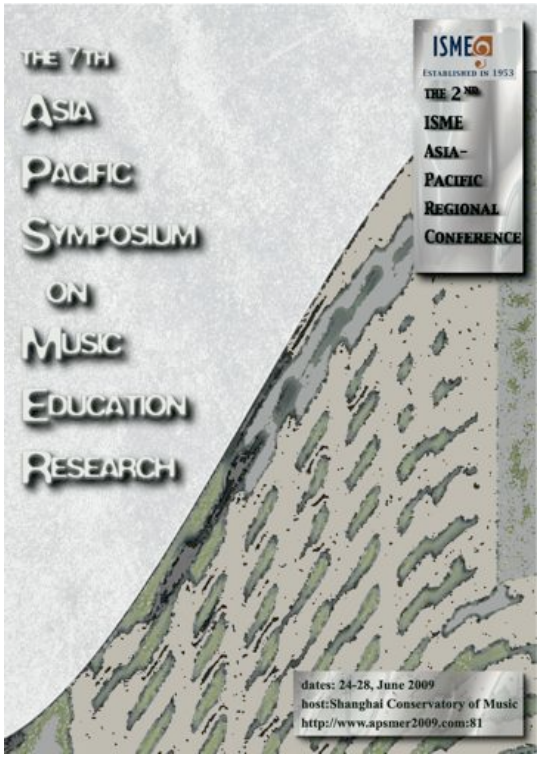
来年の広島大会でも，多くの発表を聞かせていただくことを楽しみにしております。

3．海外トピックス

3-1　第 7 回 APSMER/ISME Asia Pacific Regional Conference 2009 年上海大会の御案内と発表募集

APSMER 運営委員長　村尾忠廣

第 7 回アジア太平洋音楽教育シンポジウム（APSMER）/ISME アジア太平洋地域大会は以下の要領で開催されます。



期日：2009 年 6 月 24（水）- 28（日）
会場：中国，上海音楽院
大会実行委員長：Yu Danhong
発表申し込み：2009 年 1 月 31 日締切

詳細は香港の APSMER 公式サイトを通じて上海 Website をご覧ください。
http://www.ied.edu.hk/cape/apsmer_r1/
http://www.apsmer2009.com:81
（Mac ではいくつかの項目を開くことができません。現在修理中です。お急ぎの方は，Windows でご覧ください。）

基調講演は，ISME 会長の Hakan Lundstrom，元 ISME 会長の Gary MacPherson，中国音楽教育学会会長の Ruimin Yang, ISME 理事の Magret Barrett，それに APSMER 委員長の村尾忠廣の 5 人が予定されています。ISME 新会長の Hakan は奥様が日本人で，実家が愛知教育大学の近く（半田）です。そのため，愛知教育大学において講演会をしていただいたことがあります。その時の講演テーマが何と「日本のポピュラー音楽の過去, 現在, 未来」というもの。津軽三味線・ロックの上妻さんのファンでもあります。彼の講演は日本人にとって特別な興味深いものになることでしょう。Gary と Margaret は，ドイツのフライブルグで一緒に基調講演をおこなったこと

があります。(音楽学，音楽心理学，音楽教育学の学際的シンポジウム)。第 1 回の APSMER 大会からの（韓国，ソウル）メンバーです。二人とも文字通り世界トップの研究者になりました。

会場の上海音楽院はかつて集中講義をしたことがあり，よく知っているはずなのですが，昨年招聘を受けて訪れた時にはキャンパスのビルがほとんど建て替えられていました。そのため，近くまで行きながら道にまよったほどです。しかし，キャンパスの門を一歩でますと，日本の有名な居酒屋が 3 軒も軒を連ねています。近くまで来ればもう迷うことはないでしょう。

APSMER/ISME 上海大会の特色としては「アジア太平洋地域院生フォーラム」を企画していることです。近年，アジア地域において音楽教育研究を専攻する大学院生が急増しており，研究の質的レベルも非常に高くなっています。アジア太平洋地域は近くの国です。もし，この地域で研究交流が進展し，データを協力して収集できるようになれば，研究の質はいっそう向上できることでしょう。そのためにも若い時から国際的な人脈をつくってほしいものです。APSMER/ISME2009 は絶好の機会となると思います。もちろん，それは院生に限ったことではありません。私自身, 60 歳を過ぎても新たな国際人脈の輪を拡げています。100-200 名程度の参会者（上海大会は 300 名？）ですから，友人，知人をつくりやすいのです。ぜひ，上海大会に参加いたしましょう。日本から大勢の音楽教育関係者が参加されることを望んでいます。

（挿し絵は奥忍さんのデザインによる APSMER/ISME Regional Conference 2009 上海大会用のポスターです。）

《国際交流委員会からのお知らせ》

日本音楽教育学会ホームページ英語版のリニューアルと韓国語版の開設

国際交流委員会では，学会のホームページ英語版をリニューアルするとともに，韓国語版を新規に開設しました。今後も随時，情報を更新していく予定です。

４．事務局より

4-1　お知らせ

１）年会費未納の方には，「払込取扱票」を同封しますので，早めの振り込みをお願いします。
２）住所変更された方は，学会事務局に FAX または E メールでお知らせください。
３）事務局本部スタッフとして徳山菜央が新規に加わりました。よろしくお願いします。

♪徳山菜央♪
10 月末より，ご縁をいただき事務局でお世話になっております。皆様のお役に立てるよう精一杯頑張りますので，どうぞよろしくお願いいたします。

……【編集後記】……

ついこの間，国立音楽大学での学会で皆さまとお目にかかったと思っていたのに，もう年の瀬です。ニュースレターも今年度，３回目の発行となりました。編集担当として皆さまからの原稿を読ませて頂きながら，学会が多くの方々の力に支えられていることを実感しています。原稿をお寄せ下さった皆さま，ありがとうございました。またお読み下さる方々からも今後のために率直なご意見をいただき，ニュースレターが会員にとって有益な情報源となるようにしていきたいと思っています。皆さまからのご意見，情報をお待ちしています。

この１年，私は何をしただろうかと振り返ることばかりが多い昨今ですが，夢は失わずに，一歩一歩，進んで行ける新しい年にしたいと願っています。

2009 年が皆さまにとっても実りの多い年でありますように！

（嶋田由美，北山敦康）

……

＜平成 20～21 年度　日本音楽教育学会役員＞

会　　長：吉田　孝
副 会 長：北山敦康
常任理事：齊藤忠彦（事務局長），嶋田由美・津田正之（総務），田中健次（会計）
　　小川昌文・杉江淑子・三村真弓（企画），八木正一（編集）
理　　事：尾藤弥生（北海道），降矢美彌子（東北），佐野　靖・筒石賢昭
　　坪能由紀子・藤沢章彦・本多佐保美（関東），村尾忠廣（東海）
　　安田　寛（近畿），吉富功修（中国・四国），岩崎洋一（九州）
会計監事：奥　　忍・今川恭子
事 務 局：亀山さやか・山本由紀子・徳山菜央・光平有希

＜日本音楽教育学会事務局＞

【事務局本部】
所在地：〒184-0004 東京都小金井市本町 5-38-10-206
　　日本音楽教育学会事務局
　　TEL＆FAX　042-381-3562
　　E-mail　onkyoiku@remus.dti.ne.jp
私書箱：〒184-0015 東京都小金井郵便局私書箱 26　＊郵便物は私書箱へ
開局日：火・水・木　10：00～16：00

【事務局編集担当】
所在地：〒739-8524 広島県東広島市鏡山 1-1-1
　　広島大学大学院教育学研究科初等カリキュラム開発講座
　　権藤研究室気付　日本音楽教育学会事務局〔編集担当〕
　　E-mail　jmesedit@hiroshima-u.ac.jp